

令和6年度
事業報告書

学校法人 八戸工業大学

目 次

I. 法人の概要

1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	1
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 役員の概要	5
6. 評議員の概要	8
7. 教職員の概要	9

II. 事業の概要

1. 八戸工業大学	10
2. 八戸工業大学第一高等学校	12
3. 八戸工業大学第二高等学校	15
4. 八戸工業大学第二高等学校附属中学校	18
5. さくら幼稚園	20
6. 法人全体	23

III. 財務の概要

1. 決算の状況	26
2. その他	36
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針、対応方策	36

I. 法人の概要

1. 基本情報

- 1) 法人の名称 「学校法人八戸工業大学」
- 2) 主たる事務所の住所
〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開 8 8 番地 1 号
ホームページ : <https://www.hi-tech.aomori.jp/>

2. 建学の精神

【 正己以格物（せい・き・い・かく・ぶつ） 】

（己を正し以て物に格る）

本法人は、人格、徳性の涵養並びに知性の練磨を象徴的に表す「正己以格物」を不易の綱領と定め、建学の精神としています。

この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経の一つ「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを、深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いているものです。

本法人は、この建学の精神に基づき、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

3. 学校法人の沿革

- | | |
|------------------|---|
| 昭和 31 年 2 月 28 日 | 八戸高等電波学校の設置を申請する。 |
| 昭和 31 年 4 月 10 日 | 八戸高等電波学校を開校する。 |
| 昭和 31 年 7 月 27 日 | 学校法人八戸高等電波学校の寄附行為が認可される。 |
| 昭和 31 年 8 月 02 日 | 法務局への登記が完了し、学校法人八戸高等電波学校が成立する。 |
| 昭和 32 年 2 月 12 日 | 学校法人八戸電波高等学校に改称する寄附行為の変更が認可される。
八戸電波高等学校の設置を認可される。 |
| 昭和 34 年 4 月 1 日 | 八戸電波高等学校(本科「無線通信科、無線技術科」・専攻科)を開校する。 |
| 昭和 36 年 4 月 1 日 | 八戸電波高等学校に電子科、電気科を設置する。 |
| 昭和 36 年 11 月 1 日 | 学校法人八戸電波工業高等学校に改称する寄附行為の変更を認可される。
八戸電波工業高等学校へ名称変更を認可される。 |
| 昭和 37 年 3 月 31 日 | 八戸電波工業高等学校の無線技術科を廃止する。 |

- 昭和 37 年 4 月 1 日 八戸電波工業高等学校に機械科を設置する。
- 昭和 39 年 4 月 1 日 八戸電波工業高等学校に普通科を設置する。
- 昭和 43 年 4 月 1 日 八戸電波工業高等学校に土木科、建築科を設置する。
工業課程は、6 科（通信科・電気科・電子科・機械科・土木科・建築科）となる。
- 昭和 45 年 12 月 15 日 さくら幼稚園の設置を認可される。
- 昭和 46 年 4 月 1 日 さくら幼稚園を開園する。
- 昭和 47 年 1 月 29 日 学校法人八戸工業大学へ名称変更を認可される。
八戸工業大学の設置を認可される。
- 昭和 47 年 4 月 1 日 八戸工業大学（工学部機械工学科・産業機械工学科・電気工学科）を開学する。
- 昭和 50 年 2 月 3 日 八戸工業大学第二高等学校の設置を認可される。
- 昭和 50 年 4 月 1 日 八戸電波工業高等学校白銀校舎（工業課程）を八戸工業大学第一高等学校に改称する。
八戸電波工業高等学校大開校舎（普通科）を八戸工業大学第二高等学校として開校する。
- 昭和 51 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部に土木工学科及び建築工学科を設置する。
- 昭和 57 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部にエネルギー工学科を設置する。
- 昭和 59 年 4 月 1 日 八戸工業大学第一高等学校に情報科を設置する。
- 昭和 63 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部に食品工学研究所及び情報システム工学研究所を設置する。
- 平成 5 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部に構造工学研究所を設置する。
- 平成 7 年 3 月 16 日 八戸工業大学に大学院工学研究科修士課程の設置を認可される。
- 平成 7 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科修士課程を設置する。（機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻）
- 平成 8 年 12 月 19 日 八戸工業大学に大学院工学研究科博士後期課程の設置を承認される。
- 平成 9 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科に博士後期課程を設置する。（機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻）
- 平成 10 年 12 月 22 日 八戸工業大学大学院工学研究科に修士課程建築工学専攻の設置が承認される。
- 平成 11 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科に修士課程建築工学専攻を設置する。
八戸工業大学工学部にシステム情報工学科を設置する。
八戸工業大学工学部電気工学科を電気電子工学科へ名称変更する。
- 平成 12 年 12 月 21 日 八戸工業大学大学院工学研究科建築工学専攻に博士後期課程の設置が承認される。
- 平成 13 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科に博士後期課程建築工学専攻を設置する。
八戸工業大学工学部機械工学科を機械情報技術学科、土木工学科を環境建設工学科へ名称変更する。
- 平成 14 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部に生物環境化学工学科を設置する。
八戸工業大学工学部に異分野融合科学研究所を設置する。

- 平成 15 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部電気電子工学科を電子知能システム学科へ名称変更する。
八戸工業大学第一高等学校に進学科、情報電気科、環境建設科を設置する。
八戸工業大学第一高等学校電子科、電気科、土木科、建築科、情報科の募集を停止する。
- 平成 16 年 10 月 5 日 感性デザイン学部感性デザイン学科を設置する届出書が受理される。
- 平成 17 年 4 月 1 日 八戸工業大学に感性デザイン学部感性デザイン学科を設置する。
- 平成 18 年 10 月 31 日 八戸工業大学が「日本高等教育評価機構」による「機関別認証評価」に係る実地調査を受審する。（～11 月 2 日、平成 19 年 3 月 29 日認定）
- 平成 19 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科機械システム工学専攻を機械・生物化学工学専攻に同電気電子工学専攻を電子電気・情報工学専攻へ名称変更する。
- 平成 21 年 4 月 1 日 八戸工業大学に工学部土木建築工学科を設置する。
八戸工業大学工学部生物環境化学工学科をバイオ環境工学科へ名称変更する。
- 平成 22 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部電子知能システム学科を電気電子システム学科へ名称変更する。
八戸工業大学第一高等学校に普通科並びに工業科を設置する。
- 平成 26 年 3 月 11 日 八戸工業大学が、公益財団法人日本高等教育評価機構（JIHEE）から同機構が定める大学評価基準に適合していると認定される。（10 月 2 日～10 月 4 日、大学機関別認証評価の実地調査を受審する）
- 平成 27 年 4 月 1 日 八戸工業大学大学院工学研究科土木工学専攻を社会基盤工学専攻へ名称変更する。
- 平成 27 年 4 月 28 日 八戸工業大学エネルギー環境システム研究所を地域産業総合研究所へ名称変更する。
- 平成 28 年 3 月 31 日 八戸工業大学大学院工学研究科建築工学専攻を廃止する。
- 平成 29 年 3 月 2 日 八戸工業大学第二高等学校附属中学校の設置を認可される。
八戸工業大学第二高等学校附属中学校の設置、収益事業の中止、役員等選任条項の変更に伴う寄附行為の変更が認可される。
- 平成 30 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部機械情報技術学科を機械工学科へ名称変更する。
八戸工業大学工学部電気電子システム学科を電気電子工学科へ名称変更する。
八戸工業大学工学部バイオ環境工学科を生命環境科学科へ名称変更する。
八戸工業大学感性デザイン学部感性デザイン学科を創生デザイン学科へ名称変更する。
八戸工業大学第二高等学校附属中学校を開校する。
- 令和 3 年 3 月 16 日 八戸工業大学が、公益財団法人日本高等教育評価機構（JIHEE）から同機構が定める大学評価基準に適合していると認定される。（10 月 19 日～10 月 21 日、大学機関別認証評価の実地調査を受審する）
- 令和 4 年 4 月 1 日 八戸工業大学工学部工学科を設置する。

八戸工業大学感性デザイン学部創生デザイン学科を感性デザイン学科へ名称変更する。

八戸工業大学工学部機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科、生命環境科学科、土木建築工学科の学生募集を停止する。

令和 6 年 1 月 25 日 八戸工業大学第二高等学校通信制課程の設置を認可される。

八戸工業大学第二高等学校通信制課程の設置に伴う寄附行為の変更が認可される。

令和 6 年 4 月 1 日 八戸工業大学第二高等学校通信制課程を設置する。

4. 設置する学校・学部・学科等

1) 設置状況

(令和6年5月1日現在)

学校名	研究科・学部・課程等	学科
八戸工業大学大学院	工学研究科 博士前期課程 博士後期課程	機械・生物化学工学専攻
		電子電気・情報工学専攻
		社会基盤工学専攻
八戸工業大学	工学部	工学科
	感性デザイン学部	感性デザイン学科
八戸工業大学第一高等学校	全日制課程	普通科
		工業科
八戸工業大学第二高等学校	全日制課程	普通科
	通信制課程	普通科
八戸工業大学第二高等学校附属中学校		
さくら幼稚園		

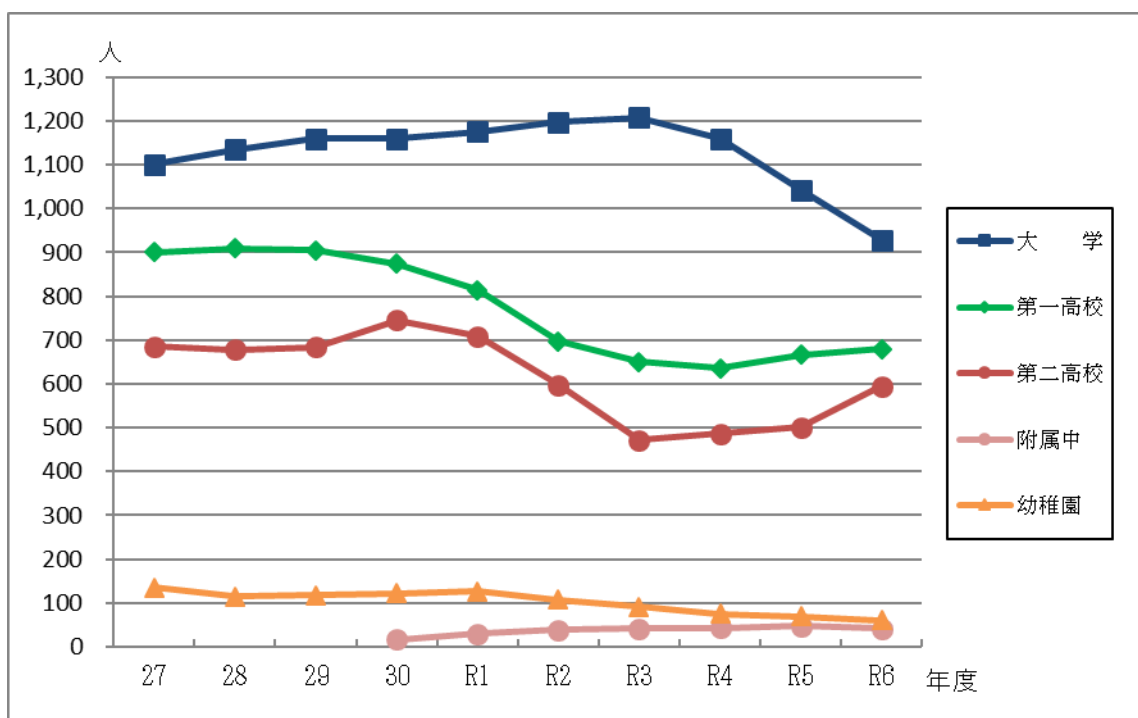
2) 学校・学部・学科等の学生数

(令和6年5月1日現在)

学校名	研究科・学部・課程等	学科	収容定員	現員数	
八戸工業大学 大 学 院	工学研究科 博士前期課程	機械・生物化学工学専攻	10	5	
		電子電気・情報工学専攻	10	5	
		社会基盤工学専攻	10	4	
		小計	30	14	
	工学研究科 博士後期課程	機械・生物化学工学専攻	6	2	
		電子電気・情報工学専攻	6	1	
		社会基盤工学専攻	6	0	
		小計	18	3	
	大 学 院 計			48	17
	八戸工業大学	工 学 部	工学科	750	517
機械工学科			50	46	
電気電子工学科			40	30	
システム情報工学科			60	95	
土木建築工学科			60	51	
生命環境科学科			40	20	
小計			1,000	759	
感性デザイン学部		感性デザイン学科	200	152	
		小計	200	152	
学 部 計			1,200	928	

学校名	研究科・学部・課程等	学科	収容定員	現員数
八戸工業大学第一高等学校	全日制課程	普通科	240	236
		工業科	735	443
	第一高校 計		975	679
八戸工業大学第二高等学校	全日制課程	普通科	720	569
	通信制課程	普通科	240	25
	第二高校 計		960	594
八戸工業大学第二高等学校附属中学校			180	42
さくら幼稚園			90	61
合 計			3,453	2,304

3) 園児・生徒・学生在籍者数の推移 (H27～R6)



5. 役員の概要

1) 役員

理事 11人 (定数: 8人以上 13人以内)

監事 2人 (定数: 2人以上 3人以内)

(令和6年4月1日現在)

職名	氏名	備考	
理事長	柳谷 利通	常勤	
副理事長	橋本 精二	非常勤	会社役員 (副会長)
常務理事	白石 司	常勤	
理事	坂本 禎智	常勤	八戸工業大学 学長
理事	藤澤 重信	常勤	八戸工業大学第一高等学校 校長
理事	黒坂 孝	常勤	八戸工業大学第二高等学校 校長 八戸工業大学第二高等学校附属中学校 校長
理事	上澤 司	常勤	さくら幼稚園 園長
理事	大庭 文武	非常勤	元八戸市教育委員長
理事	武輪 俊彦	非常勤	会社役員 (代表取締役)
理事	阿波 稔	常勤	八戸工業大学 学長補佐
理事	吉田 忠一	常勤	学校法人八戸工業大学 事務局長

職名	氏名	備考	
監事	田島 幹二	非常勤	会社役員（取締役会長）
監事	島守 雅之	非常勤	会社役員（代表）

2) 役員賠償責任保険契約の状況

日本私立大学協会を団体契約者とする「私大協役員賠償責任保険」制度加入

①被保険者の範囲：理事・監事・評議員・管理職

②保険契約の内容の概要

被保険者が本法人の役員としての業務につき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等を補償するもの。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じている。保険料は全額法人が負担する。

3) 理事会開催状況

令和6年度開催数 12回

開催日	議案
R6. 4. 30	第1号議案 「八戸工業大学ガバナンス・コードへの適合状況の確認」に関する件 第2号議案 「八戸工業大学ガバナンス・コード」の改正に関する件 第3号議案 令和6年度資産運用方針に関する件 第4号議案 資産の取得に関する件
R6. 5. 30	第1号議案 令和5年度監査報告に関する件 第2号議案 令和5年度事業報告に関する件 第3号議案 令和5年度決算に関する件
R6. 5. 30	第1号議案 「学校法人八戸工業大学寄附行為」変更に関する件 第2号議案 「八戸工業大学大学院学則」変更に関する件 第3号議案 八戸工業大学「名誉教授の称号」授与に関する件
R6. 6. 26	第1号議案 八戸工業大学第一高等学校教育基金に関する件
R6. 7. 31	第1号議案 学校法人八戸工業大学「教職員の採用計画」に関する件 第2号議案 八戸工業大学第二高等学校創立五十周年記念事業寄付金に関する件 第3号議案 八戸工業大学「HIT女性技術者育成基金」寄付金募集に関する件 第4号議案 八戸工業大学「奨学規程」改正に関する件 第5号議案 学校法人八戸工業大学「資産運用」に関する件
R6. 9. 27	第1号議案 学校法人八戸工業大学「早期退職優遇制度に関する規程」改正に関する件 第2号議案 「資産の取得」に関する件
R6. 10. 30	第1号議案 理事の辞任に関する件 第2号議案 学校法人八戸工業大学「顧問」の契約に関する件 第3号議案 学校法人八戸工業大学「資産運用」に関する件
R6. 12. 20	第1号議案 「八戸工業大学 特任教員に関する規程」改正に関する件 第2号議案 学校法人八戸工業大学「資産運用」に関する件
R7. 1. 31	第1号議案 八戸工業大学学長選任に関する件 第2号議案 八戸工業大学第一高等学校校長選任に関する件 第3号議案 「八戸工業大学第二高等学校学則」変更に関する件 第4号議案 学校法人八戸工業大学「顧問」の契約に関する件 第5号議案 学校法人八戸工業大学「内部統制システム基本方針」の策定に関する件 第6号議案 組織変更に伴う諸規程の改正に関する件
R7. 2. 27	第1号議案 「学校法人八戸工業大学就業規則」改正に関する件 第2号議案 「学校法人八戸工業大学有期雇用教職員就業規則」改正に関する件

開催日	議 案	
	第 3号議案 第 4号議案 第 5号議案 第 6号議案 第 7号議案 第 8号議案	「学校法人八戸工業大学非常勤講師就業規則」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学育児・介護休業等に関する規程」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学給与規程」改正に関する件 「八戸工業大学教授会規則」改正に関する件 「八戸工業大学大学院工学研究科委員会規程」改正に関する件 日本私立大学協会役員賠償責任保険制度に関する件
R7. 3. 25	第 1号議案	令和6年度「学校法人八戸工業大学補正予算」に関する件
R7. 3. 25	第 1号議案 第 2号議案 第 3号議案 第 4号議案 第 5号議案 第 6号議案 第 7号議案 第 8号議案 第 9号議案 第 10号議案 第 11号議案 第 12号議案 第 13号議案 第 14号議案 第 15号議案 第 16号議案 第 17号議案 第 18号議案 第 19号議案	令和7年度「学校法人八戸工業大学事業計画並びに予算」に関する件 八戸工業大学第一高等学校教育基金に関する件 「学校法人八戸工業大学役員報酬等の支給基準」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学役員等の出張旅費等に関する規程」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学会長等の任用及び報酬等に関する規程」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学寄附行為施行細則」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学理事会運営規程」制定に関する件 「学校法人八戸工業大学評議員会運営規程」制定に関する件 「学校法人八戸工業大学監事監査規程」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学文書保存規程」及び「学校法人八戸工業大学文書取扱規程」の廃止並びに「学校法人八戸工業大学文書管理規程」制定に関する件 「学校法人八戸工業大学リスク管理規程」制定に関する件 「学校法人八戸工業大学内部監査規程」改正に関する件 「学校法人八戸工業大学コンプライアンス規程」制定に関する件 「学校法人八戸工業大学公益通報等に関する規程」改正に関する件 学校法人八戸工業大学寄附行為の変更及び学校法人八戸工業大学寄附行為施行細則の改正に伴う各規程の改正について 「さくら幼稚園園則」変更に関する件 「学校法人八戸工業大学組織等に関する規程」改正に関する件 「八戸工業大学ガバナンス・コード」の改正に関する件 学校法人八戸工業大学「資産運用」に関する件

6. 評議員の概要

1) 評議員 23 人 (定数 : 17 人以上 27 人以内)

(令和6年4月1日現在)

氏名	備考
柳谷 利通	学校法人八戸工業大学 理事長
橋本 精二	学校法人八戸工業大学 副理事長
白石 司	学校法人八戸工業大学 常務理事
坂本 禎智	学校法人八戸工業大学 理事
藤澤 重信	学校法人八戸工業大学 理事
黒坂 孝	学校法人八戸工業大学 理事
上澤 司	学校法人八戸工業大学 理事
大庭 文武	学校法人八戸工業大学 理事
武輪 俊彦	学校法人八戸工業大学 理事
阿波 稔	学校法人八戸工業大学 理事
吉田 忠一	学校法人八戸工業大学 理事
工藤 嘉範	地方議会議員
柴田 一則	会社役員 (取締役・執行役員)
大館 恒夫	第一高校教育後援会 会長
浅利 能之	八戸工業大学同窓会 副会長、八戸工業大学同窓教職員の会 会長
福士 信雄	八戸工業大学同窓会 会長、会社役員 (代表取締役)
福士 憲一	元八戸工業大学 副学長
岩渕 義昭	第二高等学校後援会 会長、第二高等学校同窓会 会長、会社役員 (代表取締役)
小笠原 良誠	第一高校同窓会 会長、会社役員 (代表取締役)
河原木 聡	第二高校附属中学校 副校長
横町 浩明	会社役員 (専務取締役)
作田 真樹	さくら幼稚園 教頭
工藤 幸太	第一高校 副校長
金子 賢治	八戸工業大学 学長補佐

2) 評議員会開催状況

令和6年度開催数 3回

開催日	議案
R6. 5.30	第1号議案 令和5年度監査報告に関する件 第2号議案 令和5年度事業報告に関する件 第3号議案 令和5年度決算に関する件 第4号議案 「学校法人八戸工業大学寄附行為」変更に関する件
R7. 3.25	第1号議案 令和6年度「学校法人八戸工業大学補正予算」に関する件
R7. 3.25	第1号議案 令和7年度「学校法人八戸工業大学事業計画並びに予算」に関する件 第2号議案 八戸工業大学第一高等学校教育基金に関する件 第3号議案 「学校法人八戸工業大学役員報酬等の支給基準」改正に関する件 第4号議案 「学校法人八戸工業大学役員等の出張旅費等に関する規程」改正に関する件 第5号議案 「学校法人八戸工業大学会長等の任用及び報酬等に関する規程」改正に関する件 第6号議案 「学校法人八戸工業大学寄附行為施行細則」改正に関する件 第7号議案 「学校法人八戸工業大学理事会運営規程」制定に関する件 第8号議案 「学校法人八戸工業大学評議員会運営規程」制定に関する件 第9号議案 「学校法人八戸工業大学監事監査規程」改正に関する件

7. 教職員の概要

(令和6年5月1日現在)

教職員区分	法人 事務局	八戸工業 大学	八戸工業 大学第一 高等学校	八戸工業 大学第二 高等学校	八戸工業大 学第二高等 学校附属中 学校	さくら 幼稚園	合計
専任教員	-	66	55	46	7	9	183
教授(教諭)	-	46	54	40	7	6	153
准教授	-	13	-	-	-	-	13
講師	-	5	1	6	-	2	14
助教・助手	-	2	-	-	-	1	3
兼務教員	-	67	8	26	4	-	105
教員計	-	133	63	72	11	9	288
専任職員	2	73	6	4	-	1	86
兼務職員	1	19	6	7	-	5	38
職員計	3	92	12	11	-	6	124
合計	3	225	75	83	11	15	412

II. 事業の概要

1. 八戸工業大学

「知の拠点として地域に愛され、頼られ、選ばれる大学」を目指して

1) 中長期目標・基本計画「HIT Grand Design 55」の着実な履行

平成30年度に制定された「HIT Grand Design 55」において長期計画を平成30年度～令和9年度の10年間、中期計画は平成30年度～令和4年度の5年間、令和5年度～令和9年度の各5年間を計画期間として設定し、令和5年度からの5年間においては計画の中間評価、見直しにより新たな中期計画及び長期計画として改定している。この中長期目標・基本計画「HIT Grand Design 55」に基づく令和6年度の重点項目を定め、計画の着実な履行を行った。

2) カーボンニュートラル（CN）達成に資する活動の推進（継続）

「HIT カーボンニュートラルロードマップ」に基づき、昨年度開講のプログラム科目「カーボンニュートラル入門」に加えて、令和6年度は「カーボンニュートラル概論Ⅰ」「カーボンニュートラル概論Ⅱ」を新たに開講し、これら3つの関連科目を単位取得した学生も生まれるなど、カーボンニュートラル達成に資する人材育成プログラムを深化させた。また、令和4年度から継続し開催している「HIT カーボンニュートラル人材育成協議会」（令和6年度は第4回、第5回の2回開催）において、産官より、「北東北に就職し地域を活性化する人材育成に関する要望」を賜り、本学と共同して小中高を含めた生涯カーボンニュートラル教育のあるべき姿の検討を開始した。

3) 社会の要請に応える新たな教育分野の構築に向けた検討（継続）

新たな教育分野の構築については、令和5年より八戸工業大学将来計画委員会にて組織的に検討しており、これまでの大学基本方針を踏まえつつ、従来の工学系の枠を超えて幅広く理系・文系の受け皿となるような学部・学科編成が求められることから、社会環境の変化への対応及び工学・デザインを核とした発展的な改組として、デジタル分野、グリーン分野を軸とする学部等の編成を検討案の土台とし、社会の要請に応える新たな教育分野の構築へ向けてカリキュラム等の具体化を進めた。

また、学部・学科編成案に応じた大学キャンパスの将来性及び効率的な活用についても併せて検討し、キャンパス整備構想として教育・学習環境の整備についても具体化を進めた。

4) デジタルを活用した大学教育の高度化（DX）の推進（継続）

本学にて実施している「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は3年目を迎え、令和6年度は展開科目群の「データアナリティクスⅡ」を新たに開講した。これまでの取り組みを踏まえ「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」全体の成果と課題が見えてきたことから、プログラムの改善に努めているところである。

また、本学教職員対象のICTを活用した教育に関する研修会を開催し、生成AIへの理解や事務作業スキルの向上を図ったことに加えて、他大学の教職員等を対象とした「数理・データサイエンス・AIプログラム教育ワークショップ」を開催した。本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の科目群や授業内容等の取組について紹介し、参加した11

大学の教職員とともに、デジタル人材の育成について理解を深める機会とした。

5) 地域貢献型大学としての一般教養教育構築（継続）

共創教育（分野を超えた教育）プログラムとして、安全・安心・健康で文化的な地域社会の創出に貢献できる人材の育成を目的とした「北東北八戸の地域学」を開講し、地域の特色の理解、地元愛の醸成を図った。若年者の県内定着の促進に向けた取組を推進する青森県の重点事業とも関連することから着目されているカリキュラムであり、今後、地域との連携がさらに深化することとなる。

また、高大連携事業としてグループ校の高校生を対象に入学前講習（数学）の実施及び「カーボンニュートラル入門」の履修機会の提供を行ったことに加えて、一般市民の方々に対しては、番町サテライトキャンパスでの公開講座を通じて化学、物理、数学等教養分野の面白さを伝えるなど、地域の多様な層に向けて教養分野の大切さを伝えるとともに、受講者の知識の裾野を広げる取組を実施した。

6) 地域と連携したリカレント教育・寄付講座の拡充（継続）

社会人に向けたリカレント教育として、履修証明プログラム制度を特別の課程として開設しており、令和6年度は「HIT 土木工学基礎プログラム」、「HIT 海洋学プログラム」、「HIT 機械工学基礎プログラム」の3つの履修証明プログラムを開講した。また、寄付講座についても複数の企業による講座を実施し、八戸地域の様々な業種に関わる経営者などを講師に、地域の産業や働き方について学ぶ講座や青森県のエネルギー事業について学ぶ講座を展開した。

7) 志願者・入学者の増加を目指した新たな拠点・制度づくり

・「内部進学特待生制度」の新設

第一高校及び第二高校（以下、グループ校）の生徒で、本学での学業に意欲的である者や、経済的な理由等で専門学校などへの進学を検討している者等を対象に、本学へ内部進学した場合は、奨学金を給付する（「内部進学特待生」とし、グループ校からの内部進学者を一定数確保することで、本学での学びと課外活動の活性化を図ること目的とした制度を新設した。

・「八戸工業大学 STEAM 女子推進支援室」の設置及び「理系女子奨学金制度」の新設

女性の活躍促進についての社会的ニーズが高まる中で、これまで「HIT リケジョ LABO」にて実施していた理系女子の人材育成活動を包括する「八戸工業大学 STEAM 女子推進・支援室」を設置した。

また、入試制度においては、新たに工学部入試に女子特別枠を設定することと併せて、「HIT 女性技術者育成基金」を設立した。この基金に係る寄付募集活動により、本学に入学した優秀な女子学生を対象とする奨学金給付（「理系女子奨学金」）制度をはじめとする教育活動支援体制を拡充し、継続して理系女子の人材育成を推進し、企業で活躍する女性技術者を輩出する活動を進めていくこととした。



8) 留学生等の受け入れ・支援体制の構築

4月より新たに留学生の特定技能1号試験合格を支援する「八戸工業大学外国人特定技能エンジニアプログラム」を開設し、前期（4月～9月）開講した建設分野、自動車整備分野及び後期（10月～3月）開講した工業製品製造分野において、プログラムを受講し特定技能1号試験に合格した修了生を輩出した。修了生は、各分野の現在県内外企業にて就業しており、次年度は新たに自動車運送業（トラック）コースを開設するなど、引き続き、特定技能エンジニアプログラムにより留学生等のサポートを進めていくこととした。



2. 八戸工業大学第一高等学校

1) 学習指導要領を踏まえた適切な学習評価

令和4年度入学生から適用した新学習指導要領による新学習評価が3年目となり、今年度から全学年に対し同じ評価方法となった。令和5年度から観点別評価を統一しており、年間5回行う成績会議にて、正しく評価されているか確認した。3年生の科目には新カリキュラム移行による新科目があり、シラバスと年間授業計画を整備し授業を行った。

4月と10月に授業公開を行い、多くの保護者に授業を観ていただき、そのアンケートから指導改善につなげた。

2) 高大連携及び企業との連携による高度な専門教育の実現

- ・八戸工業大学の科目等履修生（高大連携履修生）として、24名が「カーボンニュートラル入門」を受講し17名が単位認定された。
- ・八戸工業大学進学支援ゼミと称し、大学に内部進学する35名を対象に、大学の教授が来校し数学の授業を10コマ行い、生徒の基礎学力向上につなげた。
- ・3年工業科電気工一が八戸工業大学電気電子通信工学コースの協力を得て、実習と課題研究を行った。また、東北大学大学院工学研究科助教が来校し、エネルギー事情についての講座を行った。
- ・全国高等学校ロボット競技大会連続出場を目指し県予選会に挑んだが、今回は予選突破できなかった。
- ・高校生ものづくりコンテスト県大会「電子回路組立部門」「旋盤作業部門」に出場した。
- ・10月の3日間、企業38社、自衛隊、八戸工業大学において2年工業科全員が就業・講義体験を行った。
- ・地域活性化教育支援ネットワーク（REN）が主催する「元気な八戸づくり若者シンポジウム」にて、2年工業科建設コースの生徒が「地元で活躍するカーボンニュートラル人材を目指して」と題し発表を行い八戸市長賞を受賞した。



- ・普通科生に対し、他校にない多彩なプログラムを企画した。八戸東消防署員による講話、八戸警察署・八戸海上保安部・八戸税務署・企業等での現地学習、外部講師による英語特別講座とスポーツ科学講座、その他様々な取り組みを行った。



3) 資格試験、検定試験、国家試験の受験率・合格率の向上

今年も全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度の区分表4点以上となる試験を受験する生徒に対し、受験料の半額を補助し、受験者の負担を軽減した。

4) ICTを活用した教育DXの推進

教職員用校内LANと系統が異なる生徒用校内LANの構築がほぼ完了した。アクセスポイントを13カ所設置し、全教室がWiFi環境の下、インターネット接続が可能となっている。多くの授業で端末の活用が浸透してきている。また、全教室に配置している大型ディスプレイを有効活用している。

オンライン学習支援アプリ「スタディサプリ」を全校生徒に、「スタサブ English」を普通科生に活用させた。

5) 部活動の活性化、地域の文化継承活動、地域貢献活動を通じた総合的人間教育の推進

- ・部活動加入率は1学年99.6%、2学年84.7%、3学年91.2%であった。

- ・県高校総体では男子団体優勝が5種目（水泳、ボクシング、ウエイトリフティング、レスリング、クライミング）、女子団体優勝が1種目（ソフトテニス）となり、男子は総合優勝を逃したものの、5年ぶり15回目の総合準優勝であった。

- ・夏季インターハイに49名が出場し、ボクシングウェルター級では5位と活躍した。

- ・冬季インターハイにはアイスホッケー部が出場した。

- ・全国選抜大会には54名が出場した。

- ・国民スポーツ大会夏季大会に18名、冬季大会に8名が出場した。

- ・バスケットボール部がウィンターカップ（全国高校バスケットボール選手権大会）に出場した。

- ・2月に苫小牧市で行われた2026ミラノ・コルティナ冬季オリンピック女子アイスホッケー最終予選に、日本代表GKとして3年普通科の黒丸春香さんが選出された。参加国は、フランス、ポーランド、中国、日本の4か国で、出場の機会はなかったが、日本は3戦全勝で出場枠を獲得した。直後に行われたアジア冬季競技大会では韓国戦で初めて日本代表として出場し、無失点で勝利を収め、決勝リーグ全勝で2大会連続優勝を飾っ



た。

- ・3年工業科の金渕光希君（硬式野球部ピッチャー）が、ドラフト会議において横浜 DeNA ベイスターズから育成3位で指名された。
- ・八戸ショッピングセンターラピアで毎年恒例の文化部展示会「三部展+1」を開催した。
- ・部活動父母顧問研修会を開催し、講師に横浜 DeNA ベイスターズのスカウティングディレクターを招き、講演会を行った。
- ・八戸三社大祭と八戸えんぶりのお祭りボランティアとして、部活動顧問の引率の下多くの生徒が参加した。
- ・クリーン白銀と称し、年間2回学校周辺の清掃活動を行った。また、降雪の度、部活動生が学校周辺を含めた除雪活動を行った。
- ・インターアクトクラブでは、神社の清掃やりんごの収穫など年間を通して活動した。



6) 志願者数・入学者数の増加を目指した広報・募集活動の強化

- ・部活動体験見学会を2回実施した。8月3日に201名、9月28日に154名の中学生が参加した。この企画はアンケート結果から非常に満足度が高いものであり、本校を専願で志望するきっかけとなっている。
- ・体験入学を8月17日～18日の2日間で実施した。中学生544名が参加し、昨年度に比べ増加した。保護者の来校も増えている。
- ・中学校教員対象説明会を県内4カ所で開催した。
- ・中学3年生対象の説明会の他、中学2年生を対象とする説明会も積極的に行った。
- ・趣向を凝らした学校案内・ポスターを制作した。カレンダーも作成し中学校に配付した。
- ・学校行事等の度にその様子をホームページに掲載し、学校の出来事を公開した。



7) 気候変動に対応した設備を整え安心安全な環境の構築

- ・暖房機の稼働は11月から3月とし、設定温度22℃で使用した。
- ・エアコンの稼働は6月下旬から9月上旬とし、設定温度27℃で使用した。
- ・第1体育館の雨漏り対策工事を行った。
- ・施設設備、車両の安全点検を随時行った。
- ・貯水槽や高架水槽の清掃を6月に行った。
- ・消防用設備の点検を9月に行った。

8) 新規校務支援システムを活用した校務DXの推進

校務管理システムBLENDの運用を開始した。教職員間、教員生徒間、教員保護者間における連絡機能や、欠席連絡はすぐに浸透し毎日活用された。また、令和7年度選抜検査におけるWeb出願について、市内私立高校が足並みをそろえて運用を開始した。願書入力と

受検料決済をWeb上で行うものである。その他の校務処理については、旧システムで行った。来年度から出席簿、成績処理、指導要録、調査書、証明書発行等、BLENDを使用し本格運用することになる。

9) 生徒支援・教育相談体制の充実

- ・各学期に1回、いじめ調査アンケートを全校生徒、全保護者に対して実施した。3学期のアンケートには、教員によるハラスメントや体罰の有無を問う項目も設けた。
- ・各学期、全生徒に努力実践目標を記入させ指導に活用した。記入後は、校長が目を通し所見を記入し、3年生とは面談も行った。
- ・登校時挨拶運動・交通安全指導を、年間8:05~8:25の時間帯、管理職や各分掌長が中心となり行った。生活委員会の生徒も協力した。
- ・志学寮の舎監は、教員が一日交替のローテーションで行い、一年中寮生を指導する体制をとった。
- ・全女子生徒を集め、女子としてのマナー等を考えるきっかけとなることを目的とした研修会を3回実施した。
- ・心の教室を2回実施した。1回目は甲状腺がんを克服し歌手になった木山裕策氏の講演会を行い、2回目は競泳池江璃花子選手の母、美由紀氏の講演会を行った。
- ・教室で授業を受けることができないが、勉学に励みたいという生徒に対し、別室での学習を認めるという「サポートルーム制度」を運用している。今年度は2名認定した。



3. 八戸工業大学第二高等学校

1) 観点別評価を指導・学習改善につなげる仕組みの研究

ア 授業改善の継続実施

年間2回の授業公開、教員同士で授業を見学し合う互見授業、生徒からの授業アンケート結果を通して、他者からの意見を踏まえ、自身の授業での指導改善を図る機会となった。

イ 評価規準、評価方法・シラバスの点検

今年度も評価方法と評価規準について、同一類型ごとに年間の評価計画を作成した。また、シラバスについては、評価方法、評価規準を盛り込み、内容を充実させることができた。



2) 充実した教育を受けられる生徒支援の実施

ア 教育環境の整備と校内業務の効率化

教員一人一人の業務負担の軽減を狙いとして、校務支援ソフトBLENDを導入した。一年目ということもあり、生徒の出欠と教員の出席簿の管理をシステムかすることで大きく負担を軽減できたと考える。また、新年度に向けてのWEB出願を行い、例年行ってい

た入試処理や全校生徒名簿などの制作も負担なく行えるようになった。

イ ICT活用による教育の推進

本校50周年記念に向け、無線ネットワークの高速化が予定されている。これにより、生徒一人一台の端末所持での授業などが展開できる下地になると考えられる。さらに生徒個別の最適な学びや生徒の学習理解度把握に効果的な授業展開が可能となる。

ウ アドバンスルーム制度の整備

本校では様々な事情により「教室で授業を受けることはできないが、勉強はしたい」という生徒に対して、教室以外の場所（アドバンスルーム）での学習を認める制度を設けている。アドバンスルームでの学習は自学自習の形となるが、教科担当から出される課題に取り組み、質問したりすることができる。令和6年度からは教科担当の他に、全教員にアドバンスルーム監督を割り当て、全校体制でアドバンス生を支援する体制を整えた。



エ 通信制の課程における支援

5教科の面接指導（授業）を平日に大学で行い、実技教科の面接指導を土日に第二高校で行うことにより、生徒の登校しやすい環境整備に努めた。また、登校日には生徒一人一人に必ず声かけを行い、あわせて丁寧な学習指導を心がけるなど、「自分を待っている学校があること」「自宅での学習を支援してくれる先生がいること」を生徒・保護者が実感できるように心がけた。生徒からの要望が多い、友達づくりのために、グランドゴルフ大会や3回の校外学習を実施するなど、生徒間のコミュニケーションや共同的な活動が自然と図れるような機会を設けている。

3) “生きる力”を育む「地域ESD活動」及び「NIKOプログラム」の深化 ～ユネスコスクール・キャンディデート校登録による活動の質の向上～

ア ユネスコスクール認定に向けた取り組みの実践

令和4年度9月にユネスコスクール・キャンディデート校に認定され、SDGs達成のための活動、ESDを進めた。UNICEFの活動の一環としての世界寺子屋運動、三陸海岸から採取したマイクロプラスチックの研究、子ども食堂の実施、文化際フェアトレード商品（フィリピン・スリランカ）の販売、未使用文具を回収し途上国へ送る活動、八戸市からの助成金にもとづく「八戸えんぶり」研究・報告、ウミネコ研究、仙台城南高校WWL拠点校の連携校、ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト助成、ユネスコスクール北海道・東北ブロック探究発表会（優秀賞）、八戸SDGsフォーラムでの発表など。令和7年1月末、ユネスコ本部に正式加盟申請を行った（令和7年4月3日付正式認定）。



【子ども食堂の実施】



【フェアトレード商品の販売】



イ 「総合的な探究の時間」の評価方法の工夫改善

WWL(World Wide Learning)拠点校(仙台城南高校)の連携校として、先進的カリキュラムに触れて評価方法の改善を進めている。具体的には年間計画に基づく授業実施記録簿を導入して、次年度の評価ルーブリック完成を目指している。

ウ 教科横断学習実践に関する研究の継続

WWLの連携校として、これまでに「みらい東北プレサミット」に二度参加して本校で設定している探究テーマとその取組が他校と比べて遜色無いことを確認している。今後も同様なテーマ実践を心がけ、研究を継続して複数の教科視点に基づく学習活動をサポートする。



4) 志願者数及び入学者数の増加を目指した募集・広報活動の強化継続

・ブランドムービーを再撮影し、学校のリブランド化を図っている。親しみやすく生徒が輝いているイメージを伝える動画となり、再生回数も2000回を超えている。



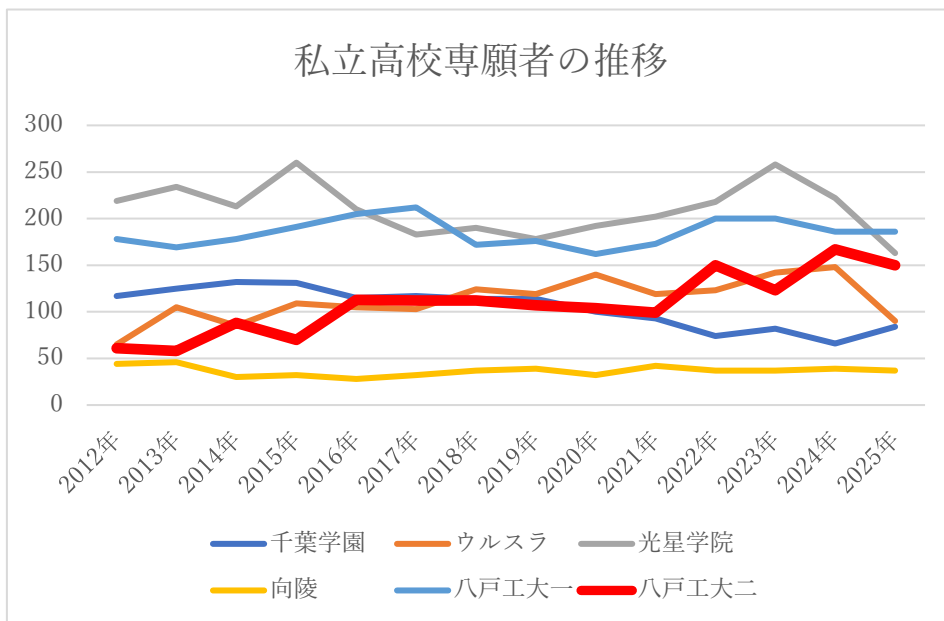
・パンフレットや学校説明の画像の刷新

美術コースだけではなく、彩のある空間を感じてもらえるよう、各所で工夫を凝らしている。パンフレットは見やすく生徒の活動が肌で美しい二高をPRしている。今後も新しい広報活動を模索していきたい。



・ 専願者の増加

2021年からの統計をみると、八戸市内の私立高校の中でも着実に専願者を伸ばしている。コロナの影響などがあり停滞した時期もあったが、全体的に右肩上がりでも伸長していることが分かる。今後は、対私立高校だけではなく対公立学校への対策も強化していく。専願者増を果たすため更に募集の工夫や第二高校の魅力度を高め、学園全体のイメージアップを図っていきたい。



4. 八戸工業大学第二高等学校附属中学校

1) 特色ある教育活動の推進

ア 進路意識を高める校外学習や各種研修旅行の工夫

- ① 東京研修旅行：JAXAや国立科学博物館、グローバルゲートウェイでの英語研修、東大駒場リサーチキャンパス等に参加し、最先端の研究や留学の疑似体験等を通して、将来の進路について考え、研修する機会とした。
- ② 国内研修旅行：神戸・徳島地域を研修エリアとして、防災・減災・復興研修のまとめとSPRING8の見学や研究者から授業、姫路城、大塚美術館、明石大橋、鳴門の渦潮等の見学を通して、本物の持つ魅力に触れるとともに将来の仕事等を考えるきっかけとした。
- ③ 校外学習②：中3年生が、進路研究の一環に、興味ある仕事や研究を取材する計画を立て、実際のそれぞれの場所に行って現場の方々に取材する経験を通して、自分の進路方向を考えることに活かした。

- イ 個人差及び先取り学習に対応した学習計画や学習機会の工夫
 - ・習熟度の個人差については、放課後学習や考査後学習で対応した。また、個別指導の必要な生徒には、休み時間や放課後等に指導した。
 - ・中3年生は、先取りしている内容について、高校の放課後講座や選択講座に希望者が参加して学ぶことが出来た。
- ウ 一貫コース中高の交流会、学習合宿・学習会、研修会等の実施
 - ・一貫コース中高の交流会として、種差海岸への徒歩遠足や炊事活動を実施することが出来た。ただし、学習合宿や研修会は参加することが出来なかったが、次年度に計画的に実施したい。また、次年度春には、一貫コース中高1泊2日の合同合宿を計画し、新1年生のオリエンテーションや交流を目的に、実施を目指したい。
- エ 豊かな経験をはぐくむ学校外活動への積極的な参加の勧め
 - ・高校生が参加するボランティア活動や探究活動への参加を勧めた結果、多くの中学生が高校生と活動を共に、貴重な経験をすることが出来た。特に、活動前の事前学習や活動中の熱心な態度、活動のまとめ等、高校生の真剣な姿から多くのことを学んだことが、振り返りの文章等から把握できた。

2) 生徒指導・教育相談、学習相談の充実

- ア 「校風」（礼儀・礼節）を日々意識した実践と規範意識や愛校心の醸成
 - ・毎日の挨拶の実践と振り返り、校外研修の場での挨拶の意識を高めての取り組み、高校生と一緒に行事を作ることで「愛校心」の醸成では、生徒の変容した姿が多く見られたことにより、成果が認められた。
- イ 生徒理解を基盤とした学級・学年経営と教育相談・学習相談の定期的な実施
 - ・学級担任及び専属教員による教育相談・学習相談は、定期的に行なうことが出来た。また、その内容等について、専属教員及び教科担当教員間で共有し、学校生活及び授業場面で配慮したり励ましたりすることが出来た。
- ウ 生徒の自主性や計画性を育成する行事や特別活動の推進
 - ・行事及び研修活動は、全て生徒の自主性や計画性を育成する機会として、指導を継続してきたことにより、取り組みへの意欲や態度、計画する力等に確かな変容が見られた。

3) PRの手立てを工夫する生徒募集活動

- ア 科学的な講座や受検学習会、各種活動の体験教室等を通して、本校の特色や魅力に触れる募集活動の展開
 - ・新たな取り組みとして部活動体験会、受検講習会を実施したが、予想よりも多くの児童が参加した。また、高校生の丁寧で優しい指導にも安心した児童・保護者が多く、受験者数の増加にも繋がった。また、継続しているプログラミング講座にも、興味ある児童が意欲をもって参加していた。
- イ 生徒の活躍（実績）や教育奨学生制度を前面に出す広報活動の強化
 - ・生徒の活躍と卒業生の進学実績には、関心が高める保護者も多く、広報活動の強化につながった。また、教育奨学生制度は、候補となった児童の8～9割が入学したことにより、効果は確認できた。次年度も継続していきたい。
- ウ 本校の特色ある教育への理解を深めるための教育活動見学会の実施
 - ・教育活動見学会や校舎見学には、多くの保護者・児童の関心は高く、今後も継続していきたい。

たい。そのためにも、生徒の意識を高め、授業に集中する態度の育成と環境の美化・整備等に継続して力を入れていきたい。

5. さくら幼稚園

1) 園児一人一人に寄り添う教育・支援の推進

ア 基本的な生活習慣の継続的な指導

- ・自分から進んで挨拶ができるように教職員が手本を示し、挨拶を交わす気持ちよさが伝わるようにした。また、毎日、継続して挨拶ができている子を褒め、挨拶の輪が広がるようにした。保護者の方も挨拶を意識し、こどもたちへ声掛けしてくれるようになった。
- ・排泄の習慣ができていない子は家庭と協力しながらトイレトレーニングを進めた。個室の空間に慣れさせたり、便座に座ってみたり個々の成長に合わせて対応した。また、各個室内に排泄の手順が分かるような絵カードを設置し、覚えてたのこどもが分かりやすいような工夫をした。うまくできた時には家庭にも連絡し、共に成長を喜び、こども自身も嬉しさが増すようにした。
- ・手洗い、うがいをしっかりとできるように声掛けをするとともに、はんかちやティッシュを常に持ち歩くように指導した。毎日、繰り返し声を掛けることでこどもたちも自ら意識してできるようになってきている。
- ・食事の場面では、箸の持ち方や食べ方、姿勢を繰り返し教え、食事をのどに詰まらせたり、箸でけがをしたりしないよう安全面に配慮した指導をしている。また、色々なメニューに興味をもって食べられるよう栄養に関する指導もしている。野菜が苦手な子が食べられるようになり、保護者の方からも嬉しい報告が寄せられている。
- ・健康な身体作りを意識し、園庭やホールで思い切り身体を動かして遊ぶ時間を設けている。夏には園庭を裸足で走り回り、足の裏へさまざまな刺激を受け、五感も養っている。様々な大型遊具に挑戦する中で身体の使い方が上手になったり、できることが増えたり、こどもたちが自分自身の成長を実感できる機会にもなっている。
- ・毎日、絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、心が豊かに育まれるよう努めている。また、生活していくうえで必要な知識や考え方も身に付けられるよう行事や季節に合わせた内容の本も取り入れている。読み聞かせだけではなく、こどもたちが自分で絵本を読めるような環境作りも行っている。
- ・日常の遊びの中で数や文字に触れられる機会を作り、興味を持てるようにした。興味を持つ年齢やタイミングにも個人差があるため、楽しみながら数を数えたり、文字を書いたり読んだりできるように配慮している。

イ 園児の個性に応じた指導法の強化

- ・園内でケース会議を実施し個別の指導計画を作成した。指導内容や方法を工夫し、全教職員が共通理解する場を設けることで、園全体が協力して指導することができた。
- ・療育機関や相談機関等との連携を密にし、情報交換や担当者会議なども実施した。また、施設見学も行い、環境設定や指導の様子を直接見ることができ、園での指導にも繋げることができた。
- ・保護者の気持ちに寄り添い、支え、相談し合うことをねらい「さくら子育て相談室」を開室した。特別な支援を要する子の保護者に限らず、育児に悩む保護者と直接顔を合わせて話し

合うことで信頼関係を築き、よりよい教育活動ができるようにした。

ウ 生きる力を養うための体験活動の充実

- ・季節に応じた遊びを設定しながら子どもたちが自然の変化に気付いたり、様々な事象に興味を持ったりできるように工夫した。その中で季節や気温に応じた衣類の調節や水分補給に関しても身に付けられるように指導した。
- ・毎月の避難訓練を通して命の大切さを教え、災害時に自分の身を守る方法を知らせてきた。繰り返し経験することで、どんな時に何をどうするのかを覚え、園内だけではなく他の場面での対応も考えられるようになってきている。

2) ホームページや園務システムを活用した募集・広報の実施

ア ホームページの見直しと改編

- ・ホームページをリニューアルし、今までのホームページよりも見やすく伝わりやすいものとなるように工夫した。また、ホームページから見学や未就園児教室の申し込みができるようにした。時代のニーズにも合っており、ホームページからの問い合わせが新入園児の獲得にも繋がっている。
- ・ホームページの中に動画を組み入れたことで子どもたちのいきいきとした様子が伝わり、保護者だけではなく見学に来た方からも好評だった。

イ 大学の公式サイトを利用した動画の公開

- ・八工大のYouTubeチャンネルを利用していくつかの行事の様子を保護者限定で配信した。各家庭で子どもと一緒に見ることで会話が増えたり、話だけでは分からないことが伝わったりして良かったと喜びの声が上がっている。

3) 法人内の学校との連携を図った活動の継続

ア 八戸工業大学

【遠足】サーキット&ボール遊び、自動車工作センターの見学

- ・広い体育館内に準備されたいろいろな動きに挑戦できるサーキットコーナーやボールプール、ボール遊びができるコーナーに分かれて思いきり身体を動かして楽しんだ。学生が優しくサポートしてくれたので安心安全に活動でき、子どもたちも終始笑顔だった。
- ・自動車工作センターでは救急車やドクターカーの車内見学ができ、子どもたちも目をきらきらさせながら見たり触ったり貴重な体験をすることができた。



【運動会】競技準備の手伝い

- ・運動会当日、競技で使用する用具の運搬や設置、競技中のピストルの合図や園児の誘導、運動会後の後片付けを学生に手伝ってもらった。学生の協力のおかげでこどもの競技を落ち着いてみたり、応援したりできると保護者からも感謝されている。

【水遊び大会】園庭にて水風船を使った的あて、色水遊び、ボールすくい等

- ・幼稚園で企画した水遊び大会に学生にも参加してもらい、水を使った様々な遊びをよりダイナミックに楽しめるようにした。学生に的をつけて逃げてもらったコーナーでは教師とは違うスピード感にこどもたちも大喜びだった。絵の具のコーナーでは混色の変化に興味を持ったり、広い空間でのびのびと表現したり自由に楽しんでいた。



【装飾「あさがお」の制作】工大祭で展示

- ・水性ペンで描いた模様にな水を付けることで色が変わっていく「クロマトグラフィー」の技法を用いた作品作りを学生と一緒にやった。使った色とは違う色が出てくる不思議にこどもたちも興味津々で取り組んだ。最後に色がきれいににじんで素敵に仕上がった紙を使って装飾「あさがお」の制作を行った。各学年で工夫を凝らし、壁に貼ったりつるしたり、並べて置いたり飾り方も様々なものが完成した。出来上がった作品は工大祭で展示した。

【なかよし祭】アスレチック、ポスター制作

- ・感性デザイン学科の学生が単管を使ったアスレチックを設置し、こどもたちに遊びの場を提供してくれた。その隣の部屋では絵本の世界を身近に感じられるようなブースが設けられ、見たり触ったりと親子で楽しむ様子が見られた。



【ペットボトルロケットの制作】

- ・満3歳と年少組は学生が制作してくれた大きなペットボトルに皆でシールを貼ってロケットを完成させた。年中・長組は小さなペットボトルと羽根の型紙を使って各自で制作した。色を塗って切った羽根や先端部を貼り付け、ビニールテープでかっこよく仕上げたロケットを飛ばしてみたいとどの子も飛ばす日を心待ちにしていた。焼き芋会当日、芋が焼けるのを待つ間、学生に教えてもらいながら水や空気を入れて順番にロケット飛ばしを楽しんだ。ロケットが飛んだ距離を友達と比べたり、遠くまで飛ばす方法を考えたり、貴重な体験となった。

【しまもり SDGs プロジェクト】 さつまいも植え（年長）、掘り（年長・中）

・しまもり SDGs プロジェクトに参加し、春に年長組がさつまいもの苗を植え、秋には年中組と年長組で収穫を体験した。秋の収穫時には大きなさつまいもを見つけ歓声をあげながら次々と掘り進めていた。時々、現れるカエルにも驚いたり、喜んだりしながら自然の中での活動を満喫した。収穫したさつまいもは数日間冷暗所でねかせると美味しく食べられることも教えてもらい学びの多い一日だった。



イ 八工大一高

【豆まき会】

・水泳部の生徒3名に鬼役を依頼し、着ぐるみの赤鬼、緑鬼、ちょっと怖い赤鬼に扮してこどもたちの前に登場してもらった。鬼の登場に驚いて逃げ回るこどもたちだったが、勇気を振り絞って投げた豆の力で鬼が退散すると安どの表情を見せていた。



ウ 八工大二高

・英語教諭と ALT が月に一度来園し、年長組を対象に英語教室を開催している。英語の歌詞で歌を歌ったり、自己紹介をしたり、色や形、数や動物が出てくるゲームをしたり、楽しみながら英語を覚えられる良い機会となっている。

4) 施設・設備等の点検・整備

- ・2年に1度の専門業者による園庭遊具の点検、職員による年2回の園内外の安全点検を実施し、こどもたちが安全に活動できる環境づくりに努めた。
- ・春に遊動木の補修を行い、こどもたちが喜んで遊んでいる。
- ・ホール正面（ステージ上）の壁を修復した。
- ・定期的に園庭の芝刈りを依頼した。こどもたちにも安全に遊べるように小石を拾ったり、たんぼぼやシロツメクサを摘んだりするように声を掛け、のびのびと走り回れるよう整備した。

6. 法人全体

1) 安定的、継続的運営に資する財政基盤の構築

ア 予算編成方針及び予算管理方法の見直し

適切な予算執行・支出予算管理を目指すために、法人全体の財政状況の透明性を図り、予測困難な時代にも柔軟かつ迅速に対応できる法人全体の財政運営と安定性・継続性の高い財政基盤を構築する。経常収支差額のプラスを目指し、収入の増及び経常的経費の削減等支出の減を図る。また、大学では各担当者が随時予算執行データの残高、執行内容を確認できるようにしているが、未だ浸透していないため周知を図る。

イ 積極的な補助金申請・採択率向上に向けた体制の見直し

事務組織改編により法人事務局と大学事務組織を一体化したことから、既存の補助金申請事務の分担を見直した。次年度以降、年間のスケジュールイメージや資料作成のマニュアル等を各校と共有した上で補助金メニューごとの担当部局を明確化し、よりスムーズな補助金申請を可能とする仕組みを構築し、有効かつ適切な補助金申請のルーティン化を図る。

ウ 資産運用方針に基づく資産運用の点検と実施

令和6年度資産運用方針のもと、将来の資金需要に対応するための資産形成に向けた投資とすること、また運用に当たってはリスク軽減のために、資産及び時間の分散投資を図った。資産運用に当たっては、普通預金を原資に債権、投資信託などで資産運用を実施した。

2) 機能性・効率性向上を目指した組織運営とガバナンス体制の構築

ア 組織改編への対応と運營業務の基盤構築

法人事務局と大学事務組織を一体化し、組織機能を法人本部、教育研究実施組織、運營業務実施組織の3つに再編した。また、総務部長の機能を強化し、教育研究実施組織及び運營業務実施組織の円滑な運営のための連絡調整として、現在、総務部長が実施している会議体等の根拠等を整備する「学校法人八戸工業大学組織等に関する規程」の改正を行った。

イ 教学計画に基づく中期的な視野による教員採用・適正配置

昨年度に引き続き、各学校長からのヒアリング及び高校の公開授業に役員及び法人事務局職員が参加し状況を把握した。

ウ 人材育成・評価制度の実用化に向けた検討の継続

令和6年度の実施は試行期間を含めて6期目の評価期間であるが、課題である処遇への反映については、評価結果と併せ、その他評価結果以外の勤務状況等を勘案した学校長の総合的な意見を踏まえた処遇反映を令和3年度より実施しているが、制度目的の定着や、制度の仕組みを活用して自他の能力開発につなげる意識などの組織風土を醸成し、組織目標を達成していく為に、より効果的な方法を引き続き検討する。

エ 運営基盤強化を目指した各種規程の点検と整備

改正私立学校法及び改正私立学校法施行規則に則り、寄附行為をはじめとする各種規程の点検と整備を行った。また、学校法人八戸工業大学における活動を健全かつ効率的に運営するための仕組みを整備することを目的とした「内部統制システム基本方針」を決定し、方針に基づく各規程等の新規制定及び改正を行った。

【新規制定・改正した規程等】

- ・「学校法人八戸工業大学寄附行為」変更
- ・「学校法人八戸工業大学寄附行為施行細則」改正
- ・「学校法人八戸工業大学役員報酬等の支給基準」改正
- ・「学校法人八戸工業大学役員等の出張旅費等に関する規程」改正
- ・「学校法人八戸工業大学会長等の任用及び報酬等に関する規程」改正

- ・「学校法人八戸工業大学理事会運営規程」制定
 - ・「学校法人八戸工業大学評議員会運営規程」制定
 - ・「学校法人八戸工業大学監事監査規程」改正
 - ・「学校法人八戸工業大学文書管理規程」制定（関連規程廃止）
 - ・「学校法人八戸工業大学リスク管理規程」制定
 - ・「学校法人八戸工業大学内部監査規程」改正
 - ・「学校法人八戸工業大学コンプライアンス規程」制定
 - ・「学校法人八戸工業大学公益通報等に関する規程」改正
- ほか

3) 教育力・研究力向上を目指した環境整備

ア 遊休資産の有効性・将来性の検討

イ 大学・高校・幼稚園における校舎耐震化検討

主として利用している設置校において遊休資産の有効活用を検討しているが、未だ活用方法を模索している遊休資産は多い。令和6年度は先駆けて「八戸工業大学将来計画委員会 教育・学習環境検討部会」内にワーキンググループを設置し、大学キャンパスの将来性及び効率的な活用について検討を進めた。検討結果の一つとして、教養科目の集約が可能であることを受け、大学1号館の教室を改修し、エアコン、大型モニター、机椅子、コンセント等の設備を整備した。また、今後の耐震化を含む大学キャンパス整備の基本構想となる「八戸工業大学キャンパス整備構想」の検討を進めた。

高校・幼稚園における校舎耐震化については、園児・生徒の安全を守るために重要であると認識している中で、建物の老朽化も逼迫していることから、教育に支障が出ないための修繕対応を優先し実施した。

ウ 第一高校における空調設備更新の実施

第一高校普通教室の空調設備を令和6年度4月に整備完了した。

エ 園児・生徒・学生の学校生活に係る外部委託関連の見直し

大学学生ホール内の売店運営業者入替え検討を進め、令和7年4月より「株式会社ファミリーマート」サテライトショップをリニューアルオープンすることを決定した。これにより、業者入替えに伴う既存売店設備の撤去、内装等の改修を令和6年1月から3月にかけて実施した。

4) 地域の学園としてのブランド価値向上と広報強化

ア 各設置校の広報活動推進及び法人全体における広報の在り方の検討

ホームページを中心とした安定的な各設置校の広報活動が確立しつつある。今後は、これまで以上にホームページの充実に努め、即時性のある情報発信を強化することに加え、SNSを利用した広報についても、運用の在り方を検討しつつ、各学校の魅力が伝わるよう努める。

III. 財務の概要

1. 決算の状況

1) 資金収支計算書関係

ア 資金収支計算書

資金収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から
令和 7 年 3 月 3 1 日まで

(単位 円)

No.	科 目	収 入 の 部		差 異	
		予 算	決 算		
1	学生生徒等納付金収入	1,793,180,000	1,798,076,432	△	4,896,432
2	手数料収入	30,920,000	31,507,605	△	587,605
3	寄付金収入	54,610,000	51,668,866		2,941,134
4	補助金収入	824,010,000	812,221,415		11,788,585
	国庫補助金収入	325,300,000	317,279,170		8,020,830
	地方公共団体補助金収入	498,710,000	494,942,245		3,767,755
5	資産売却収入	435,510,000	435,510,178	△	178
6	付随事業・収益事業収入	56,060,000	46,687,034		9,372,966
7	受取利息・配当金収入	40,650,000	41,072,889	△	422,889
8	雑収入	165,020,000	174,959,192	△	9,939,192
9	借入金等収入	0	0		0
10	前受金収入	205,087,000	190,770,290		14,316,710
11	その他の収入	315,386,832	92,156,110		223,230,722
12	資金収入調整勘定	△ 223,096,140	△ 248,650,718		25,554,578
13	前年度繰越支払資金	1,721,108,025	1,721,108,025		
14	収入の部合計	5,418,445,717	5,147,087,318		271,358,399
No.	科 目	支 出 の 部		差 異	
		予 算	決 算		
15	人件費支出	1,980,410,000	1,964,512,853		15,897,147
16	教育研究経費支出	767,840,000	772,814,204	△	4,974,204
17	管理経費支出	227,460,000	242,209,112	△	14,749,112
18	借入金等利息支出	0	0		0
19	借入金等返済支出	0	0		0
20	施設関係支出	108,000,000	96,902,095		11,097,905
21	設備関係支出	117,880,000	117,207,693		672,307
22	資産運用支出	726,650,000	726,651,331	△	1,331
23	その他の支出	285,109,869	305,009,535	△	19,899,666
24	〔予備費〕	(0)			
		50,000,000			50,000,000
25	資金支出調整勘定	△ 308,080,000	△ 295,189,380	△	12,890,620
26	翌年度繰越支払資金	1,463,175,848	1,216,969,875		246,205,973
27	支出の部合計	5,418,445,717	5,147,087,318		271,358,399

【資金収支計算書経年推移表】

(単位:千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	2,188,200	2,105,141	2,067,804	1,902,170	1,798,076
手数料収入	36,623	38,691	33,276	30,136	31,508
寄付金収入	26,766	32,692	38,248	52,509	51,669
補助金収入	795,468	820,483	867,983	841,565	812,222
資産売却収入	0	100,198	3,467	427,773	435,510
付随事業・収益事業収入	48,565	55,385	65,565	72,675	46,687
受取利息・配当金収入	24,610	30,280	36,176	44,510	41,073
雑収入	194,761	104,090	98,206	175,929	174,959
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	296,741	278,182	208,741	190,326	190,770
その他の収入	532,783	815,372	193,880	367,737	92,156
資金収入調整勘定	△ 389,721	△ 374,615	△ 336,410	△ 303,164	△ 248,651
前年度繰越支払資金	1,585,165	1,463,904	1,897,240	1,477,704	1,721,108
収入の部合計	5,339,961	5,469,803	5,174,176	5,279,870	5,147,087

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,125,449	2,003,263	1,957,649	2,036,051	1,964,513
教育研究経費支出	566,066	654,109	785,594	762,134	772,814
管理経費支出	200,769	196,467	201,771	215,162	242,209
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	10,769	81,972	110,125	68,387	96,902
設備関係支出	124,170	176,225	94,640	62,910	117,208
資産運用支出	699,780	435,006	520,336	420,761	726,651
その他の支出	439,802	294,856	278,841	269,293	305,009
資金支出調整勘定	△ 290,748	△ 269,335	△ 252,484	△ 275,936	△ 295,189
翌年度繰越支払資金	1,463,904	1,897,240	1,477,704	1,721,108	1,216,970
支出の部合計	5,339,961	5,469,803	5,174,176	5,279,870	5,147,087

イ 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

		科 目	金 額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,798,076,432	
		手数料収入	31,507,605	
		特別寄付金収入	30,495,695	
		一般寄付金収入	21,173,171	
		経常費等補助金収入	809,469,915	
		付随事業収入	46,687,034	
		雑収入	174,959,192	
		教育活動資金収入計	2,912,369,044	
	支出	人件費支出	1,964,512,853	
		教育研究経費支出	772,814,204	
		管理経費支出	242,209,112	
		教育活動資金支出計	2,979,536,169	
	差引		△	67,167,125
	調整勘定等		△	16,168,318
教育活動資金収支差額		△	83,335,443	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額	
	収入	施設設備寄付金収入	0	
		施設設備補助金収入	2,751,500	
		施設設備売却収入	300,000	
		減価償却引当特定資産取崩収入	0	
		施設整備等活動資金収入計	3,051,500	
	支出	施設関係支出	96,902,095	
		設備関係支出	117,207,693	
		施設整備等活動資金支出計	214,109,788	
	差引		△	211,058,288
調整勘定等			52,400,151	
施設整備等活動資金収支差額		△	158,658,137	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△ 241,993,580	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額	
	収入	有価証券売却収入	435,210,178	
		受取利息・配当金収入	41,072,889	
		借入金等収入	0	
		短期貸付金回収収入	763,500	
		預り金受入収入	4,534,268	
		仮受金受入収入	1,260	
		その他の活動資金収入計	481,582,095	
		支出	借入金等利息支出	0
	借入金等返済支出		0	
	有価証券購入支出		726,651,331	
	短期貸付金支払支出		566,000	
	預り金支払支出		16,269,599	
	仮払金支払支出		239,735	
その他の活動資金支出計	743,726,665			
差引		△	262,144,570	
調整勘定等			0	
その他の活動資金収支差額		△	262,144,570	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)			△ 504,138,150	
前年度繰越支払資金			1,721,108,025	
翌年度繰越支払資金			1,216,969,875	

【活動区分資金収支計算書経年推移表】

(単位：千円)

	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	3,278,431	3,128,412	3,152,232	3,070,242	2,912,369
	教育活動資金支出計	2,892,284	2,853,814	2,945,014	3,013,348	2,979,536
	差引	386,147	274,598	207,218	56,894	△ 67,167
	調整勘定等	△ 151,405	△ 96,227	△ 77,903	3,616	△ 16,168
	教育活動資金収支差額	234,742	178,371	129,315	60,510	△ 83,335
施設整備等による資金収支	施設整備等活動資金収入計	311,952	728,241	118,848	304,741	3,051
	施設整備等活動資金支出計	334,939	368,197	314,764	131,297	214,109
	差引	△ 22,987	360,044	△ 195,916	173,444	△ 211,058
	調整勘定等	92,103	36,561	5,751	△ 37,419	52,400
	施設整備等活動資金収支差額	69,116	396,605	△ 190,165	136,025	△ 158,658
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		303,858	574,976	△ 60,850	196,535	△ 241,993
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入計	76,515	186,942	58,853	484,111	481,582
	その他の活動資金支出計	501,634	328,581	417,540	437,242	743,726
	差引	△ 425,119	△ 141,639	△ 358,687	46,869	△ 262,144
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 425,119	△ 141,639	△ 358,687	46,869	△ 262,144
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)		△ 121,261	433,337	△ 419,537	243,404	△ 504,137
前年度繰越支払資金		1,585,165	1,463,904	1,897,240	1,477,703	1,721,108
翌年度繰越支払資金		1,463,904	1,897,240	1,477,703	1,721,108	1,216,970

【活動区分資金収支計算書関係比率】

比率名	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	7.2%	5.7%	4.1%	2.0%	-2.9%

2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から
令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,793,180,000	1,798,076,432	△ 4,896,432
		手数料	30,920,000	31,507,605	△ 587,605
		寄付金	54,610,000	53,512,855	1,097,145
		経常費等補助金	822,290,000	809,469,915	12,820,085
		付随事業収入	56,060,000	46,687,034	9,372,966
		雑収入	165,160,000	175,199,906	△ 10,039,906
		教育活動収入計	2,922,220,000	2,914,453,747	7,766,253
	事業活動支出の部	人件費	1,989,540,000	1,973,641,928	15,898,072
		教育研究経費	1,106,350,000	1,110,380,759	△ 4,030,759
		管理経費	252,500,000	259,608,175	△ 7,108,175
		徴収不能額等	4,500,000	4,983,232	△ 483,232
		教育活動支出計	3,352,890,000	3,348,614,094	4,275,906
		教育活動収支差額	△ 430,670,000	△ 434,160,347	3,490,347
	教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	40,650,000	41,072,889
その他の教育活動外収入			0	0	0
教育活動外収入計			40,650,000	41,072,889	△ 422,889
支出の活動		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	40,650,000	41,072,889	△ 422,889
経常収支差額		△ 390,020,000	△ 393,087,458	3,067,458	
特別収支	収入の活動	資産売却差額	43,590,000	43,591,761	△ 1,761
		その他の特別収入	6,320,000	10,716,861	△ 4,396,861
		特別収入計	49,910,000	54,308,622	△ 4,398,622
	支出の活動	資産処分差額	30,740,000	40,727,475	△ 9,987,475
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	30,740,000	40,727,475	△ 9,987,475
		特別収支差額	19,170,000	13,581,147	5,588,853
[予備費]		50,000,000		50,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		△ 420,850,000	△ 379,506,311	△ 41,343,689	
基本金組入額合計		△ 83,170,000	△ 81,544,459	△ 1,625,541	
当年度収支差額		△ 504,020,000	△ 461,050,770	△ 42,969,230	
前年度繰越収支差額		△ 6,257,583,223	△ 6,257,583,223	0	
基本金取崩額		27,440,000	94,377,092	△ 66,937,092	
翌年度繰越収支差額		△ 6,734,163,223	△ 6,624,256,901	△ 109,906,322	

【事業活動収支計算書経年推移表】

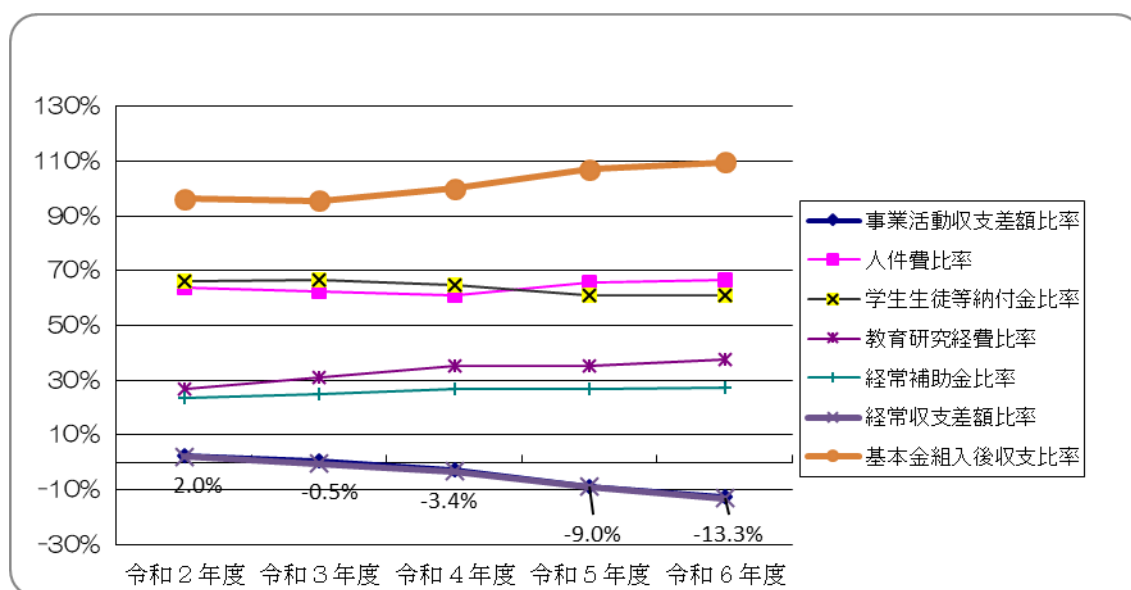
(単位:千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,188,200	2,105,141	2,067,804	1,902,170	1,798,076	
		手数料	36,623	38,691	33,276	30,136	31,507	
		寄付金	27,461	35,901	41,012	55,151	53,513	
		経常費等補助金	783,516	792,440	849,134	836,824	809,470	
		付随事業収入	48,565	55,385	65,565	72,675	46,687	
		雑収入	195,243	104,689	98,377	175,947	175,200	
		教育活動収入計	3,279,608	3,132,247	3,155,168	3,072,903	2,914,453	
	事業活動支出の部	人件費	2,108,331	1,966,033	1,945,278	2,052,066	1,973,642	
		教育研究経費	889,479	984,838	1,126,863	1,099,761	1,110,381	
		管理経費	232,844	223,147	226,815	238,579	259,608	
		徴収不能額等	6,179	2,855	2,164	7,498	4,983	
		教育活動支出計	3,236,833	3,176,873	3,301,120	3,397,904	3,348,614	
	教育活動収支差額	42,775	△ 44,626	△ 145,952	△ 325,001	△ 434,161		
	教育活動外収支	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
収入の部	事業活動	受取利息・配当金	24,610	30,280	36,176	44,510	41,073	
	教育活動外収入計	24,610	30,280	36,176	44,510	41,073		
	教育活動外収支差額	24,610	30,280	36,176	44,510	41,073		
経常収支差額	67,385	△ 14,346	△ 109,776	△ 280,491	△ 393,088			
特別収支	収入の部	事業活動	資産売却差額	0	126	0	141	43,592
		その他の特別収入	17,292	35,875	22,703	11,054	10,717	
		特別収入計	17,292	36,001	22,703	11,195	54,309	
	支出の部	事業活動	資産処分差額	0	2,324	3,837	15,096	40,727
		特別支出計	0	2,324	3,837	15,096	40,727	
	特別収支差額	17,292	33,677	18,866	△ 3,901	13,582		
基本金組入前当年度収支差額	84,677	19,331	△ 90,911	△ 284,392	△ 379,506			
基本金組入額合計	△ 41,423	△ 132,007	△ 91,082	△ 62,969	△ 81,544			
当年度収支差額	43,254	△ 112,677	△ 181,993	△ 347,361	△ 461,051			
前年度繰越収支差額	△ 5,754,760	△ 5,630,767	△ 5,737,406	△ 5,919,078	△ 6,257,583			
基本金取崩額	80,739	6,038	320	8,855	94,377			
翌年度繰越収支差額	△ 5,630,767	△ 5,737,406	△ 5,919,078	△ 6,257,584	△ 6,624,257			
(参考)								
事業活動収入計	3,321,510	3,198,528	3,214,047	3,128,608	3,009,835			
事業活動支出計	3,236,833	3,179,197	3,304,957	3,413,000	3,389,341			

【事業活動収支計算書関係比率】

比率名	算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常收入}}$	63.8%	62.2%	61.0%	65.8%	66.8%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{經常收入}}$	26.9%	31.1%	35.3%	35.3%	37.6%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常收入}}$	7.0%	7.1%	7.1%	7.7%	8.8%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動收入}}$	2.5%	0.6%	-2.8%	-9.1%	-12.6%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動收入}-\text{基本金組入額}}$	96.3%	95.5%	100.0%	106.9%	109.6%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{經常收入}}$	66.2%	66.6%	64.8%	61.0%	60.8%
經常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{經常收入}}$	23.7%	25.1%	26.6%	26.8%	27.4%
經常収支差額比率	$\frac{\text{經常収支差額}}{\text{經常收入}}$	2.0%	-0.5%	-3.4%	-9.0%	-13.3%

【主な事業収支計算書の財務比率】



3) 貸借対照表

貸借対照表

令和7年3月31日

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	12,689,066,161	12,526,107,202	162,958,959
有形固定資産	7,807,008,836	7,967,391,301	△ 160,382,465
土地	3,213,504,493	3,203,614,416	9,890,077
建築物	3,283,050,223	3,471,043,950	△ 187,993,727
構築物	184,680,741	158,864,335	25,816,406
教育研究用機器備品	401,490,406	372,934,357	28,556,049
管理用機器備品	29,934,731	25,081,388	4,853,343
図書	677,689,357	716,794,667	△ 39,105,310
車輛	10,286,885	12,686,188	△ 2,399,303
建設仮勘定	6,372,000	6,372,000	0
特定資産	3,408,061,725	3,408,061,725	0
退職給与引当特定資産	210,000,000	210,000,000	0
減価償却引当特定資産	3,170,000,000	3,170,000,000	0
第3号基本金引当特定資産	28,061,725	28,061,725	0
その他の固定資産	1,473,995,600	1,150,654,176	323,341,424
借地権	2,678,000	2,678,000	0
電話加入権	3,553,818	3,553,818	0
施設利用権	615,202	704,568	△ 89,366
ソフトウェア	17,071,450	28,007,160	△ 10,935,710
有価証券	1,450,027,130	1,115,660,630	334,366,500
保証金	50,000	50,000	0
流動資産	1,304,967,358	1,827,494,256	△ 522,526,898
現金預金	1,216,969,875	1,721,108,025	△ 504,138,150
未収入金	54,476,300	87,446,471	△ 32,970,171
貯蔵品	8,448	8,448	0
短期貸付金	496,000	693,500	△ 197,500
前払金	31,833,847	17,294,659	14,539,188
仮払金	1,182,888	943,153	239,735
資産の部合計	13,994,033,519	14,353,601,458	△ 359,567,939
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	257,159,000	245,679,894	11,479,106
退職給与引当金	241,879,820	232,890,894	8,988,926
長期未払金	3,755,180	1,265,000	2,490,180
長期預り金	11,524,000	11,524,000	0
流動負債	741,119,684	732,660,418	8,459,266
未払金	278,094,056	258,789,869	19,304,187
前受金	191,215,290	190,326,140	889,150
預り金	271,753,287	283,488,618	△ 11,735,331
仮受金	57,051	55,791	1,260
負債の部合計	998,278,684	978,340,312	19,938,372
純 資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	19,620,011,736	19,632,844,369	△ 12,832,633
第1号基本金	19,337,950,011	19,350,782,644	△ 12,832,633
第3号基本金	28,061,725	28,061,725	0
第4号基本金	254,000,000	254,000,000	0
繰越収支差額	△ 6,624,256,901	△ 6,257,583,223	△ 366,673,678
翌年度繰越収支差額	△ 6,624,256,901	△ 6,257,583,223	△ 366,673,678
純資産の部合計	12,995,754,835	13,375,261,146	△ 379,506,311
負債の部及び純資産の部合計	13,994,033,519	14,353,601,458	△ 359,567,939

【貸借対照表経年推移表】

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	13,121,059	13,306,326	12,820,766	13,068,866	12,526,107	12,689,066
流動資産	1,793,737	1,546,238	1,997,177	1,556,400	1,827,494	1,304,967
資産の部合計	14,914,796	14,852,564	14,817,943	14,625,266	14,353,601	13,994,033
固定負債	304,634	283,893	243,960	230,272	245,680	257,159
流動負債	963,606	837,438	823,419	735,342	732,661	741,119
負債の部合計	1,268,240	1,121,331	1,067,379	965,614	978,341	998,278
基本金	19,401,317	19,362,000	19,487,970	19,578,732	19,632,844	19,620,012
繰越収支差額	△ 5,754,760	△ 5,630,767	△ 5,737,406	△ 5,919,078	△ 6,257,583	△ 6,624,257
純資産の部合計	13,646,556	13,731,233	13,750,564	13,659,652	13,375,261	12,995,755
総負債及び純資産合計	14,914,796	14,852,564	14,817,943	14,625,266	14,353,601	13,994,033

【貸借対照表関係比率】

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.6年	1.9年	1.9年	1.8年	1.8年	1.7年
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	91.5%	92.5%	92.8%	93.4%	93.2%	92.9%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	96.1%	96.9%	93.2%	95.7%	93.7%	97.6%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	186.1%	184.6%	242.5%	211.7%	249.4%	176.1%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.5%	7.5%	7.2%	6.6%	6.8%	7.1%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	487.9%	493.3%	682.0%	707.9%	904.3%	636.4%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.9%	99.9%	99.6%	99.6%	99.9%	99.6%
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得}}$	68.7%	70.1%	71.0%	72.2%	73.6%	74.7%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	55.9%	57.7%	56.8%	55.5%	53.7%	51.3%

4) 財産目録

財 産 目 録

科 目	令和6年度末(令和7年3月31日現在)	
一 資産総額		
(一) 基本財産		7,807,008,836 円
1 土地	790,571.44 m ²	3,213,504,493 円
(法人)	(476,627.85 m ²)	(523,096,632 円)
(八戸工業大学)	(184,003.00 m ²)	(1,112,744,532 円)
(八戸工業大学第一高等学校)	(59,305.84 m ²)	(951,790,078 円)
(八戸工業大学第二高等学校 ・附属中学校)	(65,886.75 m ²)	(573,550,359 円)
(さくら幼稚園)	(4,748.00 m ²)	(52,322,892 円)
2 建物	89,519.67 m ²	3,283,050,223 円
(法人)	(1,948.93 m ²)	(21,048,622 円)
(八戸工業大学)	(56,790.61 m ²)	(2,248,562,761 円)
(八戸工業大学第一高等学校)	(17,032.04 m ²)	(534,402,061 円)
(八戸工業大学第二高等学校 ・附属中学校)	(12,437.74 m ²)	(432,508,533 円)
(さくら幼稚園)	(1,310.35 m ²)	(46,528,246 円)
3 構築物	255 式	184,680,741 円
4 図書	152,046冊 3,198点	677,689,357 円
5 教具・校具・備品	5,588 点	431,425,137 円
6 車輛	17 台	10,286,885 円
7 建設仮勘定		6,372,000 円
(二) 運用財産		6,187,024,683 円
1 預金・現金		1,216,969,875 円
(1) 預金		(1,215,967,520 円)
(2) 現金		(1,002,355 円)
2 特定資産		3,380,000,000 円
3 第3号基本金引当特定資産		28,061,725 円
4 有価証券		1,450,027,130 円
5 貯蔵品		8,448 円
6 短期貸付金		496,000 円
7 未収入金		54,476,300 円
8 電話加入権		3,553,818 円
9 前払金		31,833,847 円
10 仮払金		1,182,888 円
11 保証金		50,000 円
12 借地権		2,678,000 円
13 施設利用権		615,202 円
14 ソフトウェア		17,071,450 円
合 計		13,994,033,519 円
二 負債総額		
1 固定負債		257,159,000 円
(1) 退職給与引当金		(241,879,820 円)
(2) 長期未払金		(3,755,180 円)
(3) 長期預り金		(11,524,000 円)
2 流動負債		741,119,684 円
(1) 前受金		(191,215,290 円)
(2) 未払金		(278,094,056 円)
(3) 預り金		(271,753,287 円)
(4) 仮受金		(57,051 円)
合 計		998,278,684 円
三 正味財産(資産総額-負債総額)		12,995,754,835 円

2. その他

1) 有価証券の状況

(単位：円)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	1,899,900,000	1,840,157,700	△ 59,742,300
株式	440,013,000	595,955,000	155,942,000
投資信託	708,114,130	757,735,133	49,621,003
貸付信託	-	-	-
合計	3,048,027,130	3,193,847,833	145,820,703
時価のない有価証券	2,000,000		
有価証券合計	3,050,027,130		

2) 借入金の状況

借入金はありません。

3) 学校債の状況

学校債はありません。

4) 寄付金の状況

(単位：円)

種別	金額
特別寄付金	30,495,695
一般寄付金	21,173,171
現物寄付	9,809,350
合計	61,478,216

5) 補助金の状況

(単位：円)

種別	金額
国庫補助金	317,279,170
地方公共団体補助金	494,942,245
合計	812,221,415

6) 収益事業の状況

収益事業はありません。

7) 関連事業者等との取引の状況

ア 関連当事者

対象となる取引はありません。

イ 出資会社

対象となる取引はありません。

8) 学校法人間取引

対象となる取引はありません。

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針、対応方策

安定的、継続的運営に資する財政基盤の構築のため、各設置校における定員の確保、補助金の獲得及び寄附金募集活動の強化による収入増を図り、教育力・研究力を低下させない人事政策を実施しながら、経費削減による支出の減に努めていく。